

# 科技高 いきもの記

Vol.23 2021.3.25

佐藤龍平

## 双眼鏡をもって探しに行こう 都市公園の鳥たち



↑明治神宮のオオタカ。保護対象となってからは個体数が増加しており、都心では明治神宮と上野公園で確認されている。

3月22日から3日間、短期集中講座で鳥類観察を実施した。明治神宮は個人的にはほとんど行ったことがなかったのだが、渋谷や原宿の隣とは思えないほど照葉樹林が密に発達していて、素晴らしい環境だった。驚いたのはオオタカがいたことだ。明治神宮での繁殖は以前から確認されていたようで、「オオタカ見れたらいいね〜」などと話していたら、本当に現れた！講師をお願いしたバードリサーチのお二人も「まさか本当に見れるとは！」と興奮した様子だった。こんな都会のど真ん中で生態系の頂点に位置する猛禽類が繁殖できる環境が残っていることが嬉しくなる。



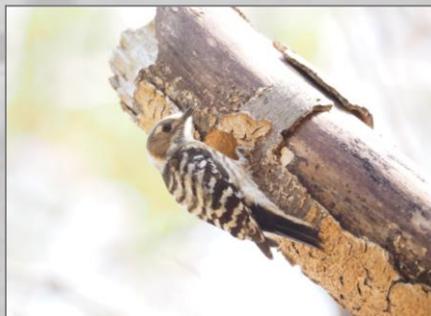
↑明治神宮の照葉樹林

猿江公園はもちろん明治神宮ほど森林が発達しているわけではないが、侮ってはいけない。落葉樹や針葉樹が生えたエリア、池、開けた明るい場所など多様な環境があるので、それぞれの場所を好む鳥たちが集まる。今の時期は渡り鳥は北へ帰ってしまい、また日本に留まっている鳥たちの繁殖の時期にもまだ少し早いので、鳥は少ない時期だが、それでも1時間足らず観察して素人でも計13種確認できた。ちなみに、プロの鳥研究者であるバードリサーチの方々には鳴き声やちょこっとしか見えない場合でも種類を言い当ててしまう。「あ、〇〇のメスが鳴いてる。」「上空を飛んでるのは××だね。（黒い点にしか見えない。）」といった具合だ。すごい…。

身近なところにも、意外とたくさん生息している鳥たち。これから繁殖シーズンになるので、春休みなどに近くの公園でバードウォッチングを試みるのはどうだろう。



↑明治神宮のカケス。青い羽根が非常に美しい。全長約30cmの大き目の鳥。こう見えてカラス科だ。



↑ジョウビタキのオス



↑シジュウカラ



←明治神宮のヤマガラ。非常に人慣れしていて、手に乗ってきた。これは誰かが餌をあげている影響かもしれないので、手放しに喜べない。



↑猿江公園のコゲラ。キツキの仲間。木に穴をあけて巣作りをしているようだ。  
←穴に顔をつっこんでいる。



↑ハクセキレイ



↑ツグミ